

◆ 2. 2階床組。

★設計図伏図は、2階梁、間仕切頭つなぎ桁法の伏図と、根太掛け、根太の伏図に分けること。

2階床組(水平グループ)の部材(横架材)は架設か所機能により各種名称でよばれている普通軸組木造住宅の場合で解説することにする。

2階床組は 胴差(稜部位)、間仕切桁、中桁(通称大梁)(他の構造部材を受ける部材) 2階梁(床(荷重)を支える)、桁等が、その部材の一部が1階小屋組の構造材を兼ねる場合がある。この部材は 階床組材として拾うこととする。

● 胴差 (どうざし)

2階床組の周囲を固める横架材(稜部材)で、間仕切桁・中桁・2階梁等の荷重を受ける部材で寸法についてはよく検討する事。幅に付いては仕口加工が起る(欠込み)ので120mm(4寸)以上がこのましい。 通し柱間(仕口～仕口)の胴差一節の長さで継手が必要な場合1か所のみとし成に付いては300～240mm(1尺～8寸)位とし、一節間の成は同寸法とし、特に部分的必要とする場合は 添桁・力貫(眞壁)等を入れ補強する。

なお通し柱と胴差の仕口を特に補強する場合は ひうち桁 を架設する。

● 間仕切桁 (まじきりげた)

間仕切桁は、横架材で構造上重要な部材で、1階軸組「柱」間仕切上部と、2階軸組「柱」間仕切部分の2階床組の横架材で特に荷重や水平外力を受けもつ部材であり、間仕切桁と言う。 間仕切桁の中でも仕口が通し柱・特殊な柱等で、柱面と接合架設する桁を、間仕切差桁(柱面に仕口)と表示すること。

間仕切桁の長さで継手が必要な場合一節に1か所のみとし、桁の成は同じ寸法とすること。特に一部分寸法(成)の大きさを必要とする場合は 添桁・力貫(眞壁)を入れて補強する。

● 中桁 (なかげた)

(通称大梁) 中桁とは間仕切桁とは違って、上下共間仕切(軸組)がなく、2階梁や桁等の部材が架設れた横架材(部材面に欠込み)を 中桁と表示すること。

● 添桁 (よえげた)

添桁(助桁)横架材の補強材として架設する横架材である。 添桁の仕口は必ず柱面とする。傾ぎ短柄ボルト締めとするか、傾ぎ大入れ柄差し込栓打ちとする。 桁下端と添桁上端と接合は、付押角縁彫込取付、太柄・駄柄取付、ボルト(ユーク)締付けとする。

● 力貫 (ちからぬき)

力貫(眞壁構造)上記添桁と同じ補強材として架設する横架材である。力貫の仕口は必ず柱面とする。柱に彫込み独鉤締めとするか、ボルト締め(上下2本)とする。桁下端を彫込取付けとする。